

地域医療連携室の  
ご案内

私たちがお手伝いさせていただきます。  
何なりとご相談ください。

これからの時代は、〈連携〉が鍵を握る時代です。  
当院では、かかりつけ医の皆さまとの窓口として、  
地域医療連携室を設置し、スムーズな連携をめざしています。



地域医療連携室長  
看護副部長

**辻 美恵子**  
Tuji Mieko  
患者さんは言うまでもなく、ご家族の相談にも丁寧に応じ、ご希望に沿った医療・介護の提供を進めていきます。



地域医療連携室主任

**毛利 浩秋**  
Mouri Hiroaki  
行政や地域の在宅事業所との関係づくりに務め、ご紹介患者さんやご家族の意向に沿った入院・退院に活かします。



地域医療連携室  
医療ソーシャルワーカー

**寺前 知子**  
Teramae Tomoko  
地域全体の医療資源、介護資源を正確に把握し、患者さんやご家族のご希望に沿った入院、在宅復帰に力を注ぎます。

患者さまのご紹介について

▶ 外来のご予約

予約日のご連絡を即時にご希望の場合は、下記までお問い合わせください(しばらくお待ちいただく場合もあります)。

●地域医療連携室直通電話

**0568-21-1732**

平日 9:00~16:30

土曜 9:00~13:00

▶ 緊急患者さまのご相談・ご紹介

緊急の外来・入院のご相談は、時間帯によって下記へご連絡ください。

■時間内

●地域医療連携室直通電話

**0568-21-1732**

■時間外

**0568-21-0811**  
(代表)

▶ 検査のご予約

検査のご予約の旨を、下記までご連絡ください。

**0568-21-0811**

(代表)

詳しくは当院のホームページをご覧ください。

<http://www.saishukan.com/medical/renkei.htm>

地域の先生方とコミュニケーションを深める  
専用サイトシステムをご用意します。

当院では、地域の医療・介護・福祉を担う皆さまとの連携強化を図るために、新しいコミュニケーションシステムを開発しています。完成次第またご案内をさせていただきますので、是非皆さまの活動にお役立てください。

▶ [http://as-ww.com/saishukan\\_btob/cat01/pg01/](http://as-ww.com/saishukan_btob/cat01/pg01/)



診療所の先生へ

先生の診療活動  
そのそばに、  
済衆館病院は  
あります。



病診連携に力を注ぎ、

先生の診療活動をお手伝いしていきます。

医療法人済衆館

済衆館病院



## 地域のハブ病院として、 診療所の先生方と手を携えて、 地域の患者さまを支えています。

私たちがめざすのは、地域のハブ病院（連携の要となる病院）です。  
診療所の先生方がいつでも相談しやすく、ご紹介いただいた患者さまに  
適切な医療を提供でき、必要に応じて高度急性期病院に繋ぐこともできる。  
そんな身近で頼りになる存在になりたいと願っています。

## 1 確かな急性期医療の 提供

ご紹介いただいた患者さまに、最新の知見に基づく急性期医療を提供します。

いざというときに「まずは済衆館病院へ」。地域の皆さまにそう思っただけのように、私たちは急性期医療の提供に力を注ぎました。そして、名古屋大学・名古屋市立大学・藤田保健衛生大学・愛知医科大学・愛知学院大学歯学部との関連・関係施設として支援を受け、質の高い医療を追求しています。その確かな急性期医療の知識と技術のすべてを、ご紹介の患者さまに提供します。また、より高度な治療が必要な場合は、速やかに近隣の高度急性期病院にご紹介します。



## 2 27の診療科の 総合力

総合的な診療機能で、ご紹介患者さまを支えます。

超高齢社会を迎え、高齢の患者さまが増えています。そして、その多くは、心臓病や慢性呼吸器疾患、糖尿病など複数の疾患を抱えており、認知症を患う方も珍しくありません。当院では27の診療科を持つ総合性を活かし、複数の疾患を抱える患者さまへの対応に力を注いでいます。かかりつけ医の先生方からご紹介いただいた患者さまに、専門性を持つ医師が、診療科の垣根を越えて医療を提供。主疾患はもちろん、複合疾患や合併症にも対応する、全身管理を行っています。



## 3 病期に応じた 入院治療環境をご用意

急性期・回復期・慢性期・終末期まで、すべての病期をカバーする合計360床。

当院は、患者さまの症状の経過に沿って、適切な医療をすべて提供するケアミックス型の病院です。一般病棟から回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟、療養病棟まで、すべての病棟機能をバランス良く整備。ご紹介いただいた患者さまの疾患や状態に合わせて、最適な療養環境をご用意することができます。また、症状の回復にしたいがい、病棟を移っていただくことで、在宅復帰までの道のりを一貫して繋いでいます。



## 4 生きる力を輝かせる チーム医療

多職種の専門ノウハウを結集し、在宅生活への道筋をサポートします。

医療が高度化するなかで、複数の医療専門職がそれぞれの専門性を活かし、連携して医療を提供することが求められています。当院においても、多職種協働によるチーム医療を積極的に実施。特に、入院中に生じる運動機能や摂食・嚥下機能の低下、認知症の悪化などの問題に対しては、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士などがチームを組み、多様な専門家の知恵と技術を持ち寄ることで、退院後の生活に向けて力強い一歩を踏み出せるよう支援しています。



## 5 在宅医療・療養を きめ細かくサポート

法人内および地域の在宅療養支援機能と連携し、在宅復帰後の安心をずっと支え続けます。

今後、在宅療養患者が増加しても、人々が安心して暮らし続けるためには、それを支える在宅医療・介護資源が必要です。しかし、地域のなかにはまだ十分な在宅療養支援機能があるとは言えません。そのため、医療資源を比較的潤沢持つ当院では、法人内に、往診、訪問看護、デイケア、デイサービス、居宅介護支援事業所といった在宅療養支援機能と、容態急変時の24時間受け入れ態勢を整備。かかりつけ医の先生方や地域の事業者さまの在宅医療・介護業務を支援しています。



当院が提供できる  
医療機能

## ご紹介いただいた患者さまに 適切な検査と 診療を行います。

当院では、通常の診療や検査のご予約はもちろん、  
緊急を要する場合のご相談・ご紹介も24時間対応でお受けしています。  
また、診療方針が決まった後は、紹介元の先生と密に情報共有しながら、  
“二人の主治医”体制で治療を進めていきます。

### 01 救急医療

尾張中部医療圏で希少な二次救急病院として、  
24時間対応で救急搬送を受け入れています。

私たちは、二次救急を担う病院としての  
使命感を持ち、「救急患者さまを決してお  
断りしない」という姿勢で、年間約2000  
件の救急車による搬送を受け入れてい  
ます。また、かかりつけ医の皆さまの、日々  
の診療活動をバックアップするために、休

日夜間の救急外来対応にも注力してい  
ます。受診後は、初期診断・初期治療を  
行った後、当院の各臓器別専門医に引  
き継ぎ、当院で対応が難しい患者さまに  
ついては、迅速に近隣の三次救急医療  
機関に紹介する体制を整備しています。



### 02 正確な診断



幅広い領域の専門医を揃え、  
多様な疾患の診断にあたっています。

消化器、内分泌、神経、呼吸器、循環器、  
腎臓の疾患から、小児の疾患まで。当院  
では、多様な診療領域にわたり、専門医  
を揃えています。かかりつけ医の先生方  
の患者さまに、疑わしい疾患があり確定  
診断が必要な場合、判断が難しい場合

などには、当院にご相談ください。豊富な  
経験を持つ専門医が、当院の検査機能  
を最大限に活かし、確定診断へと繋げま  
す。また、診断の結果、より高度な検査が  
必要とされる場合には、大学病院などの  
高度専門医療機関へ迅速に繋がります。

### 03 高度な検査体制

最新のCT、MRI装置などを完備し、  
精度の高い精密検査を実施しています。

当院では、高精度な検査機器、検査体  
制を整備し、正確な診断を支えています。  
特に、画像診断領域では、320列マルチ  
スライスCTや1.5テスラMRI、マンモグラ  
フィーなどの最新検査機器を完備。検査  
技師が撮影した画像を放射線専門医が

責任をもって読影しています。また、超音  
波検査や肺機能検査、脳波・マスター負  
荷検査などの生理検査、上部・下部の  
内視鏡検査も積極的に行っており、かか  
りつけ医の先生方のご要望に応じた検  
査を実施できる体制が整っています。



### 04 低侵襲の治療



単に完治をめざすだけでなく、  
体にやさしい低侵襲治療に力を注いでいます。

患者さまの身体の負担を軽減できるよ  
うに、当院では低侵襲の治療に力を注い  
でいます。消化管疾患、肝・胆・膵臓疾  
患、呼吸器疾患に対しては、適応症例で  
あれば、内視鏡(腹腔鏡・胸腔鏡)を用い  
た治療を積極的に選択。大学病院と密

に連携し、最新の知見を得ながら安全  
第一の手術を行っています。そのほか、  
大腿骨頸部骨折や上腕骨骨折などの  
各種骨折、手指関節の外傷などにおい  
ても、できる限り傷口を小さく抑える手術  
で、術後の早期回復をめざしています。

### 05 緊密な情報共有

検査結果や入院治療の進捗状況を、  
その都度、丁寧にご報告させていただきます。

病院と診療所の病診連携は、“二人の  
主治医”で患者さまを支えていくもの。医  
師同士がしっかり情報共有することで、  
患者さまに安心して治療を受けていた  
くことができます。そこで当院の医師から  
は、ご紹介いただいた患者さまの検査結

果や治療の進捗状況、退院後の治療な  
どについて、責任をもってご報告させて  
いただきます。また、診療所の先生からも、  
患者さまの症状や治療方法などで気  
になることがありましたら、どうぞお気軽  
にご相談ください。



# 患者さまの疾患や 状態に適した療養環境を すべてご用意できます。

私たちがめざすのは、病期を問わず、  
一貫した質の高い医療サービスを提供する「スーパーケアミックス病院」です。  
急性期から回復期、慢性期、緩和ケアまで、すべての病棟を整備し、  
ご紹介の患者さまに最適な療養環境をご用意します。

## 一般病棟

(本館3階・51床/本館4階・57床)

綿密な全身管理と  
早期離床をめざしています。

看護科長 池林明美 (本館3階) 看護科長 小嶋里美 (本館4階)

一般病棟(本館3階:外科系、本館4階:内科系)では、救急搬送された患者さまや、検査や手術のために入院した患者さまを対象に、専門的な医療と濃密な看護を提供しています。患者さまは、0歳から100歳以上と年齢層の幅も広く、主疾患も多岐にわたります。私たちは一人ひとり



の状態に合わせ、安全・安楽な看護を心がけるとともに、患者さまを確実に次のステージに送り出せるよう、早期離床・早期回復に向けたチーム医療を実践しています。

## 回復期リハビリテーション 病棟

(東館4階・38床/西館3階・50床)

患者さまの笑顔を引き出すように  
支援しています。

看護科長 向窪久美 (東館4階) 看護科長 稲葉江里 (西館3階)

西館3階は主に脳神経外科、東館4階は主に整形外科の患者さまを対象にしています。それぞれに、医師や看護師、リハビリスタッフが緊密に連携し、患者さまの筋力・体力の回復を図り、生活復帰をめざしています。看護の基本は、「手を出し過ぎない」こと。着替えや立ち座りなどの日



常動作を忍耐強く見守り、患者さまが「自分でできること」を増やせるように支援しています。また、認知症の患者さまが多いので、脳を活性化させるレクリエーションにも力を注いでいます。

## 訪問診療・訪問看護

かかりつけ医の皆さまに、今後増加する在宅医療需要への対応を全てお願いすることは、現実的ではありません。当院では、地域の皆さまと協働で在宅医療・介護

を支えるために、訪問診療・訪問看護にも取り組み、当院の退院した医療依存度の高い患者さまを中心に、専門的な医療的処置や医療機器の管理を行っています。



## 地域包括ケア病棟 (東館3階・48床)

在宅療養中に急性増悪した患者さまを受け入れています。

看護科長 河合なみ子

地域包括ケア病棟は、高度急性期を脱した患者さまや、在宅療養している患者さまを幅広く受け入れる病棟です。当院の特徴は急性期医療機能を担保しているところで、入院後、症状が悪化しても専門医がフォローできる強みがあ

ります。看護においても、急性期の目線を持って患者さまの全身状態を細かく観察し、小さな変化も見逃さないよう努めています。同時に、患者さまやご家族の思いをきちんと把握し、ご本人が「帰りたい場所に帰れる」よう支援しています。



## 緩和ケア病棟 (西館4階・20床)

療養中のがん患者さまの一時的な入院も受け入れています。

看護科長 高須真希

緩和ケア病棟は平成28年、尾張中部医療圏に初めて開設された、待望の病棟です。がん患者さまを対象に、身体的な痛みや脱水症状などを和らげるとともに、看護師が患者さま一人ひとりにじっくり時間をかけて寄り添い、ご家族とも密にコミュ

ニケーションを取りながら、一日一日を心穏やかに過ごせるよう支えています。また、当病棟では、在宅療養中のがん患者さまの心身の痛みが辛いときの一時的な入院や介護疲れの軽減を目的としたレスパイト入院も積極的に受け入れています。



## 療養病棟 (東館2階・56床/西館2階・40床)

衆を濟う(人々をすくう)という思想を大切に看護しています。

看護科長 野田登代美 (東館2階) 看護科長 横山まき (西館2階)

療養病棟は、「すべての患者さまを救う」という当院の思想を体現している、地域の最後の砦です。長期の医療管理を必要とし、在宅への復帰がむずかしい患者さまを受け入れ、必要な医療管理とともに、それぞれの尊厳を大切に

した看護を実践しています。また、療養病棟のうち、西館2階には腎・透析センターが併設されており、高齢などの理由で外来透析を続けられない方の入院を受け入れています。

